

奨励賞

I 新築の建物
I-1 居住・生活空間系の建物



設計担当者

遠野未来

遠野未来建築事務所、長野県建築士会

戸建住宅(専用)／長野県北佐久郡軽井沢町

Shell House／もりのいえ

構造 | 木造(在来工法)

階数 | 地上2階

敷地面積 | 290.94㎡

建築面積 | 37.80㎡

延べ面積 | 58.04㎡

竣工年 | 平成30年



1

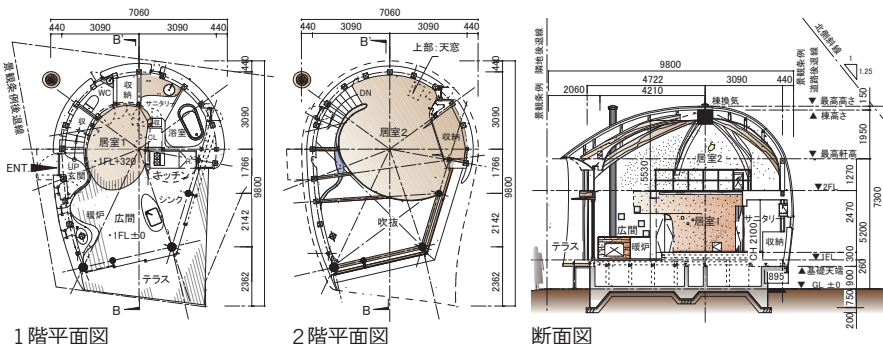
- 1 外観。信州の森の中にある小さな別荘
- 2 かぶら束を中心とした2階居室
- 3 曲面の土壁による1階居室・暖炉周り
- 4 全開口の建具により、テラスを介し中と外が一体となる



2



3



4

選評

信州の森の中に松ぼっくりのような小さな別荘があった。クライアントの「非日常的で、美しく、時を経ても古さを感じさせない建築」という要望を受け、通りに対して閉じ、水路のある東南方向に開口を開いた「もりのいえ」という作品のタイトルに相応しい佇まいを持っている。

伝統的構法による現代的空間として地域の素材と技術でつくる可能性をめざしたとのことであるが、地元の無垢の木材と土でつくられた

その空間は精神的なものを感じさせるほど素晴らしい。7本の柱と太鼓梁とかぶら束、その上に東立てし上辺がアール形状の母屋と曲木の垂木をのせてシェル形状を構成し、非対称で壁面が天井に連続するドーム型のスペースは生動的な空間性を感じさせる。寺社建築も手掛ける建設会社により施工された木架構と左官仕事は、有機的に曲線、曲面で連続していく難度の高い表現を見事に実現している。下

地、仕上とも合板、集成材、石膏ボードの類は一切使っていない。木の加工は伝統構法に熟知した工務店と大工による手刻みで、杉の木柵による曲面の左官下地も美しく一部左官を塗り残し見せている。大工、左官、家具とも長野の職人技でできている。

建築家と施工者の造形に対する執念のようなものがこの建築を支え、まさに森に溶け込み森と一体になれるような空間性を実現している。(菅 順二)